

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 18 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370817

研究課題名(和文) 前二千年紀後半アッシリアにおける地方王国マリ国の歴史学的研究

研究課題名(英文) A historical study of the local kingdom of Mari in the Middle Assyrian period

研究代表者

柴田 大輔 (SHIBATA, Daisuke)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：40553293

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、シリア北東部のテル・タブン遺跡において2005～2010年に日本隊が実施した発掘調査(隊長：沼本宏俊[国士舘大学])によって出土した紀元前2千年紀後半楔形文字文書とその歴史的背景に関する基礎研究を行なった。文書は、テル・タブン遺跡にあったタベトゥ市とその周辺に栄えた地方王国マリ国において作成されたのだが、本研究は、このマリ国とその宗主国であったアッシリアの歴史学的諸問題に関する個別課題の研究に取り組んだ。それにより、マリ国の特殊な状況の諸相を明らかにするとともに、アッシリア領土統治の多様性に光を当てた。研究の成果は、欧米の楔形文字学の主要な査読誌などにおいて論文として公開した。

研究成果の概要(英文)：Our research project investigated the history, society, and culture of a local kingdom called 'Land of Mari', which flourished in the Middle Habur region during the late second millennium B.C. as a client state, semi-autonomous from the Assyrian state. The research mainly relied upon cuneiform texts, which were unearthed at the site of Tell Taban in north-eastern Syria by a Japanese archaeological mission during the 2005 and 2010 seasons. Focusing upon such issues as the local scribal tradition and the Assyrian state scribal practice, the local cultic tradition and the Assyrian state cult, transfer of Babylo-Assyrian scholarship into the local kingdom, and the journey of Assyrian kings, we clarified various characteristics of the local government and society of the Land of Mari, which are distinct from those of the Assyrian provinces, and also shed light on the diversity of the Assyrian rule in the late second millennium B.C.

研究分野：アジア史・アフリカ史

キーワード：アッシリア 楔形文字 メソポタミア 西アジア考古学 アッカド語 属領統治 アッシリア学 楔形文字学

1. 研究開始当初の背景

日本の調査隊(調査隊長:沼本宏俊[国士館大学])が1997~1999年と2005~2010年にシリア北東部のテル・タバンの遺跡において大量の楔形文字文書を発見した。文書は紀元前18世紀後半と紀元前13~11世紀に由来する。本研究の代表者の柴田と分担者の山田はこれら文書の解読と研究に取り組んできた。

本研究の開始までに、文書の碑文学的・文献学的研究と平行し、文書の歴史学的研究にも着手した。研究開始までに代表者と分担者は次の成果を得ていた:テル・タバンの遺跡が古代のタベトゥ市であったことが確定された。さらに前18世紀後半ならびに前13~11世紀におけるタベトゥ市の政治的・社会的状況が明らかになり始めた。前13~11世紀タベトゥ市は称号「マリ国王」を名乗る領主の地方王朝の本拠地であった。マリ国は、当時ユーフラテス東岸付近に至る領域を統治していたアッシリアに服属していたが、アッシリア領土の大半を占める行政州とは異なる一種の自治領とも呼べる特種な地位にあった。領主の記念碑の分析により王統を復元したが、この王朝は地元の出自であり、家系はアッシリアによるハブール川流域征服以前に遡り、タベトゥ市一円の統治もミッタニがハブール流域を支配下に置いていた前14世紀以前から継続していた可能性が高い。アッシリアによる旧ミッタニ領征服後も例外的に存続を許されたマリ国の地方王朝は、領主の即位名をアッシリア風に変え、アッシリア王家の姫と少なくとも二度婚姻し、王宮の行政文書や食料配給に用いられたと考えられる量産土器もアッシリア式に変えた。その一方で、アッシリア全土で用いられていたアッシリア暦は採用せずに地元の暦を使い続け、ローカルな神殿祭儀も継続した。さらに上述前18世紀文書との比較により、このような在地の伝統が少なくとも前18世紀から続いていること、またマリ国という地名も前18世紀中葉までユーフラテス川中流域に栄えたマリ市に由来する可能性が高いことを明らかにした。

2. 研究の目的

テル・タバンの文書研究を発展させ、地方王国マリ国と宗主国アッシリアが持っていた関係の具体的な様相を明らかにする。それによって、これまでの研究によって俎上に載せられたアッシリア領土統治における多様性の問題をより明確にする。

3. 研究の方法

(1)テル・タバンの文書と前二千年紀後半アッシリア文書を史料にし、テル・タバンの文書によって提起される問題点に着目しながら個別研究を行う。

(2)具体的な課題を設定し、海外研究協力者とともに国際研究会議を開催する。

4. 研究成果

(1)アッシリア王による地方巡行の研究

テル・タバンの文書には前二千年紀後半アッシリア王による当地の訪問に関する記録が数点含まれる。さらにアッシリア王の地方巡行に関する記録は同時代の他のアッシリア文書にも多数認められる。しかしながら、この問題の体系的な研究は実施されていなかった。このため、海外共同研究者のJ. Llopとともに史料を包括的に収集し、関連するターミノロジーの整理と分析、地方巡行の過程の復元、行政州知事とマリ国領主ら地方王国領主の関与の分析、地方巡行の政治的・祭儀的役割の検討に取り組んだ。研究の成果はアメリカの査読付き研究誌 *Journal of Cuneiform Studies* において共著論文として公刊した。

アッシリア王のマリ国訪問に関する記録のうちの一点は、単なる王の地方巡行ではなく、アッシリア王と王太子一行が隣国のカルケミシュに向かった際、その途上でマリ国に立ち寄った記録であった。この記録は政治史的重要性に加え、歴史地理に関しても従来理解を変更する情報を持っていたため、別稿で検討した。アッシリア王一行の旅程を明らかにするとともに、マリ国の北方にあった重要な行政州都クリシュヒナシュ市の位置について新しい提案を行った。研究の成果はJ. N. Postgateの献呈論集において公刊した。

(2)マリ国におけるアッシリア式書記術の受容

テル・タバンの出土前二千年紀後半文書の特徴が原則として同時代のアッシリア文書と共通していること、よってタベトゥ市ではアッシリア式書記術が採用されていたこと、しかしテル・タバンの文書には通常のアッシリア文書から逸脱した特徴も認められることがこれまでの研究によって明らかになっていた。今回は特に楔形文字書体と法文書の書式に着目し、アッシリア書記術受容の様相をより明確にした。

書体に関しては、一部の逸脱した書体がアッシリアによるハブール川流域征服以前からこの地域で用いられていたローカルな書体に由来することを突き止め、これを手掛かりにアッシリア書記術がタベトゥにおいて受容されたプロセスの復元を試みた。この研究の成果は代表者と分担者が編集した書記術に関する英文研究書において発表した。

法文書に関しては、譲渡書に着目し、同時代のアッシリア譲渡書と比較検討することにより、共通点と独自点を明確にした。研究の成果は現在印刷中のH. Freydanckの献呈論文集において公刊される。

(3) バビロニア・アッシリアの知的伝統の受容

前13世紀末・前12世紀初頭におけるアッシリアの著名な有力者イリ・パダがマリ国滞在中に病に倒れた事件に関する書簡を手掛かりに、バビロニア・アッシリアにおける医術・暦学・ト占の伝統がマリ国に受容された様相の一端を明らかにした。また、これまで明らかになっていなかったト占と暦学に関するアッシリア方言の重要語彙の意味・用法・語源を確定した。研究の成果はドイツの査読付き研究誌 *Zeitschrift für Assyriologie* において発表した。

(4) アッシリア行政州がアッシリアの国家神の神殿に定期的に奉納した規定供物の問題

古代メソポタミアの神殿では、地域住民の有力者が輪番制で神殿に定期的に供物を奉納していたが、アッシリアではこの慣行が行政州の統治政策に転用された。すなわち、アッシリアの全行政州は首都アッシュル市にあった国家神の神殿に供物を奉納することが義務付けられており、行政州は規定された量と種類の供物を定期的に奉納していた。この政策に関する史料と先行研究を整理した。また、アッシリアに臣従しつつも行政州には組み込まれなかったマリ国がこの政策の対象にはならなかった可能性が高いことも論じた。

(5) 国際ワークショップの開催

2016年3月23–24日に海外共同研究者と筑波大学において国際ワークショップを開催した。ワークショップは代表者と分担者がオーガナイズした。研究成果は次年度までに英文研究書として公刊する。ワークショップの課題は暦。代表者と分担者以外の参加者は下記の通り。海外共同研究者：Dominique Charpin(コレージュ・ド・フランス)、Daniel Fleming(ニューヨーク大学)、Laurent Colonna d'Istria(リエージュ大学)、Antoine Jacquet(コレージュ・ド・フランス)、Cécile Michel(フランス国立科学研究センター)、Olivier Rouault(リヨン大学)、Walther Sallaberger(ミュンヘン大学)、Nele Ziegler(フランス国立科学研究センター)。国内共同研究者：山田雅道(筑波大学)、前川和也(京都大学)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

1. H. Numoto, D. Shibata and S. Yamada,

“Excavations at Tell Taban: Culture and History at Ṭābatum/Ṭābetu during the Second Millennium BC”, in: *Proceedings of International Syrian Congress on Archaeology and Cultural Heritage, 3–6 December 2015, Beirut* (in press)

2. D. Shibata, “Middle Assyrian Legal Documents of Adad-bēl-gabbe II, King of the Land of Māri”, in: D. Prechel and H. Neumann (eds.), *Festschrift für Helmut Freydank*, *Alter Orient und Altes Testament* NN, Ugarit Verlag: Münster (in press) 【査読あり】

3. K. Yamada, and S. Yamada, “Shalmaneser V and His Era, Revisited”, in: FS Cogan, Winona Lake, IN: Eisenbrauns, 2017 (forthcoming) 【査読あり】

4. S. Yamada, “Chronographic Styles and the Sense of Chronology in the Neo-Assyrian Royal Inscriptions”, in: G.-B. Lanfranchi, R. Mattila and R. Rollinger (eds.), *Writing Neo-Assyrian History: Sources, problems and approaches*, Helsinki: Neo-Assyrian Text Corpus Project, 2017 (forthcoming) 【査読あり】

5. S. Yamada, “Neo-Assyrian Eponym Lists and Eponym Chronicles: Contents, Stylistic Variants and their Historical-Ideological Background”, in: R. Rollinger et al. (eds.), *Melammu Symposium 9 (Helsinki/Tartu May 18-24, 2015): Conceptualizing Past, Present and Future*, Münster: Ugarit Verlag, 2017 (forthcoming) 【査読あり】

6. D. Shibata, “An Expedition of King Shalmaneser I and Prince Tukulti-Ninurta to Carchemish”, in: Y. Heffron, M. Worthington and A. Stone (eds.), *At the Dawn of History: Ancient Near Eastern Studies in Honour of J. N. Postgate*, Eisenbrauns: Winona Lake, 2017, pp. 491–506 【査読あり】

7. D. Shibata, Review of Beate Pongratz-Leisten, *Religion and Ideology in Assyria*, *Studies in Ancient Near Eastern Records* Vol. 6, xviii, 553 pp., Boston and Berlin: Walter de Gruyter, 2015, *The Bulletin of the School of Oriental and African Studies* 80/1, 2017, 128–130 【査読あり】

8. S. Yamada, “The Transition Period”, in: E. Frahm (ed.), *Companion to Assyria*, Malden, MA: Blackwell, 2017, pp. 108–116 【査読あり】

9. J. Ikeda, and S. Yamada, “The World’s Oldest Writing in Mesopotamia and Japanese Writing System”, in: A. Tsuneki, S. Yamada and K.

Hisada (eds.), *Ancient West Asian Civilization: Geo-environment and Society in the Pre-Islamic Middle East*, New York: Springer, 2016, pp. 157–163

10. J. Llop and D. Shibata, “The Royal Journey in the Middle Assyrian Period”, *Journal of Cuneiform Studies* 68, 2016, pp. 67–98 DOI: 10.5615/jcunestud.68.2016.0067 【査読あり】

11. D. Shibata, “The Local Scribal Tradition in the Land of Māri and Assyrian State Scribal Practice: Paleographical Characteristics of Middle Assyrian Documents from Tell Ṭābān”, in: S. Yamada and D. Shibata (eds.), *Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC*, vol. 1: *Scribal Education and Scribal Traditions*, *Studia Chaburensia* 5, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2016, 99–118 【査読あり】

12. S. Yamada, “Old Babylonian School Exercises from Tell Taban”, in: S. Yamada and D. Shibata (eds.), *Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC*, vol. 1: *Scribal Education and Scribal Traditions*, *Studia Chaburensia* 6, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2016, pp. 45–68 【査読あり】

13. S. Yamada, Review of: *The Correspondence of Tiglath-pileser III and Sargon II from Calah/Nimrud*. By Mikko Luukko. State Archives of Assyria, vol. 19. Helsinki: Neo-Assyrian Text Corpus Project, 2012. Pp. lxxiv+287, 3 pls., illus., *Journal of American Oriental Society* 136, 2016 【査読あり】

14. 中田一郎、柴田大輔、「古代西アジアと楔形文字」、古代オリエント博物館編『世界の文字の物語 - ユーラシア 文字のかたち - 』古代オリエント博物館、2016年4月9日、10–19頁

15. D. Shibata, “Hemerology, Extispicy and Hī-padā’s Illness”, *Zeitschrift für Assyriologie und Vorderasiatische Archäologie* 105, 2015, pp. 139–153 DOI 10.1515/za-2015-0014【査読あり】

16. 柴田大輔、「アッシリアにおける国家と神殿 - 理念と制度 - 」、『宗教研究』89巻2輯、日本宗教学会、2015年9月30日、71–105 (269–295)頁【査読あり】

〔学会発表〕(計12件)

1. S. Yamada, “Dealing with Tablets and Other Inscribed Objects: a case of the Tell Taban

materials”, Workshop: Preparing the Manuals for the Protection of Syrian Cultural Heritage, 茨城県つくば市筑波大学人文社会系棟B817, 2017年3月22日

2. S. Yamada, “Is Yasin-Tepe identified with Atlila/Dūr-Aššur?”, Workshop: “Neo-Assyrian Empire, Tell Taynat and Yasin Tepe”, 東京都文京区筑波大学東京キャンパス文京校舎121教室, 2017年3月2日

3. 山田重郎「楔形文字学、西アジア文明研究と現在の我々」、人文社会系研究発信月間2016ファイナル・シンポジウム「脱皮する人文社会科学」、東京都文京区筑波大学東京キャンパス、2016年12月10日

4. 柴田大輔「紀元前7世紀ニネヴェ市におけるアッシュルバニパル王の図書館」、ワークショップ「文字に声を聞こう!」、茨城県つくば市筑波大学、2016年11月23日

5. 柴田大輔「新アッシリア時代におけるニネヴェのイシュタル」、第59回シュメール研究会、東京都新宿区早稲田大学39号館6階第7会議室、2016年6月18–19日(発表:19日)

6. 山田重郎「新アッシリア時代のエポニム表とエポニム年代誌:内容・形式の変化とその歴史的・思想的背景」、第59回シュメール研究会、東京都新宿区早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室、2016年6月19日

7. 柴田大輔「楔形文字」、文字のシルクロード、東京都豊島区池袋サンシャインシティ・ワールドインポートマート5階コンフェレンスルーム、2016年5月21日

8. D. Shibata and S. Yamada, “Calendars and Festivals of Ṭabatum/Ṭabetu and its Surroundings in the Second Millennium BC”, Conference “Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC: Calendars and Festivals”, University of Tsukuba, Tsukuba, Ibaraki 2016年3月23–24日(発表:24日)

9. 柴田大輔「Middle Assyrian Legal Documents of Adad-bēl-gabbe II, King of the Land of Māri」第58回シュメール研究会、京都府京都市京都大学ユーラシア文化研究センター、2015年6月27–28日(発表:28日)

10. D. Shibata, “The Akitu-festival of Ishtar at Nineveh: Royal Inscriptions and Emesal-prayers”, Interaction, Interplay and Combined Use of Different Sources in Neo-Assyrian Studies:

Monumental Texts and Archival Sources,
University of Tsukuba / Tsukuba International
Congress Center, Tsukuba, Ibaraki, 2014年12月
11-13日 (発表: 13日)

11. D. Shibata, "Hemerology, Divination and
Ilī-padā's Illness", 60th Rencontre Assyriologique
Internationale, University of Warsaw, Warsaw,
Poland, 2014年7月21-25日 (発表: 24日)

12. 柴田大輔「テル・タバン出土中期アッシ
リア書簡: 暦、卜占、医術」第57回シュメー
ル研究会、東京都豊島区立教大学、2014年6
月21-22日 (発表: 22日)

〔図書〕(計2件)

1. 山田重郎『ネブカドネザル2世—バビロンの
再建者』(世界史リブレット 人 3)、山
川出版社、2017、96頁

2. S. Yamada and D. Shibata (eds.), *Cultures and
Societies in the Middle Euphrates and Habur
Areas in the Second Millennium BC*, vol. 1:
Scribal Education and Scribal Traditions, Studia
Chaburensia 5, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag,
2016 xiv plus 191 pages.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柴田 大輔 (SHIBATA, Daisuke)
筑波大学・人文社会系・准教授
研究者番号: 40553293

(2) 研究分担者

山田 重郎 (YAMADA, Shigeo)
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号: 30323223